其妻の法性尼女の儀を禁ぜ再び妻とせざる
人事を聞ずして利髮を剪りて輝宗公の心
の方寸猛尼女のごとし故和平なりて思ひ出ぬ
此事言葉尽を出で一生の楽とてそなりけり

輝宗公横死に本松京亮討死之事

其後輝宗公同國二本松左京亮と
寄合たる天正年中に政宗の老父輝宗公二本松左
京亮と境論出来り天正三年より義に同四年の有
嘆て和睦仕り古京亮旗本を約束仕り打紙を持来仕る
時分細之なり輝宗公左京亮を捕へられ政宗是を跡
を慕ひ出いでぬ志力を拾て輝宗公の胸に突こみて
既に立ち行く事叶はず終に政宗生年十七歳諸年を
下知申上ず輝宗公を敵の城内へ入れ奪ひ後悔
仕るべきに降参の外を申すべきに父共に敵を討放
り子孫を立て養育致すべしと下知申すべし其色見
えて敵輝宗公を害を政宗生場にて左京を捕之
五十人迄宗の手に討取る生捕二本松の書状を責む和